

世界へ羽ばたく



校友会会長 高井 勝弘

日頃より、校友会へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、去る6月1日から8日まで、第15回校友会総会（書面表決）が開催され、第3号議案「役員改選について」では、会員皆様のご承認をいただき、私が第14代会長として3期目の再任を果たしましたことをご報告いたします。

また、女子硬式野球部の在学生及び同窓生である生井美桜捕手（スポーツ健康学部2024年3月卒）が、国際試合に出場し、決勝に進出。8月4日（日）の決勝戦ではアメリカ合衆国を11-6で破り、見事に優勝を果たしました。

さらに、ボクシング部に所属しておりました同窓生の宇津木秀選手（法学部2017年3月卒）が、東洋太平洋ライト級タイトルマッチにおいて、王者・鈴木雅弘選手にTKO勝ちし、チャンピオンの座を奪還するという素晴らしい成果を挙げました。

3期目の2年間も、皆様のご協力なしには同窓会の事業や運営は成り立ちません。今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会報誌英知Web版へ

校友会では、会報誌「英知」のタイムリーな情報提供を目指し、役員会にて内容および発送方法について検討を行いました。その結果、次号から「英知」はWeb掲載のみで届けする予定です。

具体的には、これまで年2回（9月と3月）に郵送で配布していた冊子について、9月分を引き続き郵送でお届けし、3月分をWeb版のみ（PDFファイル）で発行する予定です。掲載場所については、校友会ホームページのお知らせに掲載いたします。以下の二次元バーコードを読み取っていただき、アクセスしてご覧ください。



学校法人 佐藤栄学園
平成国際大学 校友会会報

英知

第18号

2024年9月発行

パリオリンピック



平成国際大学 学長 柏木 俊彦

今年の夏はパリオリンピックの競技をテレビ観戦で楽しみました。

日本人選手が海外開催のオリンピックとして史上最多のメダルを受賞したこと新しい時代の到来を感じました。スポーツは大きな感動を私たちに与えてくれます。それと共に、いくつかの競技でルールに係る議論がなされ、スポーツがルールで成り立っていることを実感させてくれました。スポーツの競技がルールで競われルールの判定が試合の結果に直接影響を与える以上はルールのありかたが議論の対象となるのは当然のことかもしれません。ルールにはルール自体の妥当性の問題とルールに基づく判定の可否の問題が生じます。ルール自体の妥当性の検討が必要な場合も生じるでしょう。また、ルール自体の妥当性の問題とは別に、ルールの判定を人間が行うとなれば、判定の完璧さを目指す努力は必要ですが、人間である判定者の視点によってルールの当てはめに差異が生じるのを完全に避けることは困難でしょう。スポーツも人間という不完全な存在の所作です。スポーツにフェアプレイの精神や相手に対するリスペクトが強調されるのはスポーツがルールで成り立っていることの自覚とも関係があるのかもしれませんが。

日本人の得意種目



校友会顧問 副学長 浅野 和生

パリオリンピックで日本は、海外開催の夏の大会として、最多のメダルを獲得した。オリンピックという「日本のお家芸」という言葉があり、柔道や体操など、いくつかの種目が注目されてきた。レスリングも「お家芸」だが、今回、これにフェンシングが加わった。スケートボードもメダル獲得の源となったが、意外だったのが女子パークの結果で、日本の開心那選手（15歳）が銀メダルに輝いたのだが、金メダルのオーストラリアのアリサ・トル選手、銅メダルのイギリスのスカイ・ブラウン選手は、ともに母親が日本人だった。柔道はもとより、水泳や体操、レスリングは、メダル獲得に向けて努力した長い歴史がある。しかし、新種目での快挙は、何かその種目と日本人との相性の良さがあるのではないかと考えたくなる。オリンピックの種目は多くなりすぎたように思う。スポーツ科学で、日本人と相性の良いスポーツを解明できないか。そこに集中してはどうかと思う。